

佳作 みづく

眞木喜久子

えみちやんは今年七つで、町の幼稚園に行つて、をりました。えみちやんのお家はお花屋さんで、お店には、きれいなお花や珍しいお花がいつもたくさんありました。お父様は方々のお家へお花の配達に行つたりして居ました。

えみちやんのお家では、お姉さんさえみちやんさつた二人きりなので、お父様もお母様も大變二人を可愛がつてをりました。

寒い冬がだん／＼近づいて來た日の事でした。えみちやんのお父さんは女學校からお花をたのまれて持つて行きました。女學校ではあした展覽會があるので、生徒はみんな一生懸命でお花を活けてをります。えみちやんのお父さんもお水を汲んで來ては活けたお花に入れたり、忙がしくお手傳ひをしてをりました。

だん／＼お日様もお山に沈みかけ夕方近くなりました。それでも未だすつかり出來上りません。先生も生徒もパチン／＼お花を切つてはさし一生懸命です。

バサ／＼この時らう下のガラス戸に何か大きな鳥の様なものが羽根を打つて止りました。えみちやんのお父さんはびつくりしてガラス戸の所へ行つてよく見るミ、それはみづくといふ鳥でした。お父さんは早速お花を包んで來た大きなふろしきを持つて、腰掛けの上の上

りました。靜かに手をのばしてふろしきでつかんでしまひました。又羽根がバサ／＼／＼しました。でもさう／＼みづくはふろしきの中に入れてしまひました。

お父さんは早くお家へ歸つてえみちやん達に見せ様ご思つて、大急ぎでお花を片付けて歸りました。

「えみちやん／＼早くおほきな目籠をかりておいで」お父さんはお店に這入る／＼大きな聲でえみちやんを呼びました。

「お父ちゃんなあに、なにをするの」お店に来て見る／＼お父さんはふろしきを大事そうにさげて居ます。えみちやんは何だかわからないがお臺所にかけて行つて大きな目かごをもらつて來ました。お姉さんもお店の方が何だかにぎやかなので出ていらつ／＼やいました。

「お姉ちゃん、火鉢の脇へ新聞紙を二枚重ねて敷いて頂戴」お父さんが大變忙がし／＼なのでお姉さんも急いで新／＼紙をしきました。

「さあ／＼面白いものが出てくるよ」こ／＼言つてふろしきからさう／＼みづくを出して新聞紙の上におき、すぐ目かごをかぶせました。驚ろいたみづくはかごの中でバタ／＼始めました。えみちやんもお姉さんもびつくりしました。少しする／＼みづくもちつ／＼靜まつてしまひました。

「お父ちゃんこれなあに？」

「之はねホラ、いつか繪本で見たでせう、夜になる／＼ホッホッてなく／＼ふくろうのこをね。あのふくろう／＼同じ様な鳥でみづくつていふんだよ。晝間は目が見えなくて、夜になる／＼よく目が見える様になる鳥なんだよ。お父さんは女學校のお廊下に通つてはいつて來たみづくに於いて、二人にいろ／＼聞かせてくれました。

「それからね。みづくはさげうの様なものが好きなんだよ。お／＼なりへ行つてさげうをかつて來てやらうね」お父さんは井をもつて、お隣の魚屋さんへ行き、さげうを買つて來てか

ごの中に入れてやりました。

お母さんが夕飯の仕度が出来たので、

「さあみなさん。ご飯に致しませうね」とおつしやいました。えみちやん達はみづくさんがごぜうを食べるごころが見たかつたので、いつまでも籠のそばをはなれませんでした。

「きつこみんながご飯を戴いてゐる中にみづくさんも、食べるでせうからね。さあ早くおがり」お母さんが又こうおつしやいますので、えみちやん達も仕方なくそこを離れました。

暖い夕飯が始まりました。

「えみちやんのお友達にもみづくさんを見せてあげようね」お父さんがこうおつしやつてあしたはみづくを幼稚園に持つてゆくことにきめました。

夕飯がすんで、みづくさんを見たらやつぱりごぜうを食べないでキヨロノして居ます。

えみちやんはがっかりしてまひました。

でも私が眠つてしまつたごころ、きつこ食べるかも知れないわ。そう考へながらえみちやんはおねんねしました。

明日の朝になりました。今日は随分寒い。でもえみちやんはいつもより早くおしたくして幼稚園に行きました。お父様は自轉車でみづくを幼稚園に持つて來ました。

此の間まで小鳥のおつた小舎を借りてみづくを入れました。みづくはすぐさま木にござまりました。男の子も女の子も大ぜいよつて來て、「なあに?」「何に?」「大にぎやかです。

みんながみづくの前に集つて來たので、先生が「これなんだか知つてゐます?」「みんなの顔をごらんになりました。「ふくろう」しつてゐる子が一人をりました。きつこ御本で見て知つてゐたんでせうね。知らない子達は不思議そうな顔をしてみづくを見てをります。

「先生、みづくはひるま目が見えないのね」

えみちやんがいひました。

「ほんこ？先生誰かと言ひました。

「そう。みづくやふくろうはね、晝間はよく見えないのよ。そして夜お月様が出るさ、ふくろうやみづくさんはね、よく見える様になるの。だから、晝間は大きな木の穴の中で寝て、夜になるさ出て来るの。大きな目でキョロ／＼みて、ホッホッつて鳴くのよ」子供達は先生のお顔さ、みづくさんの方を一生懸命見てをります。

「あ！先生あの井の中のなあに？」さつきえみちちゃんのお父様もつて来て下さつたさつきを
見つけてきました。

「これね、さつきよ。みづくさんの大好きなさつきよ。それからね、お肉や、蛙なんかも食べるのよみんながあまり熱心にきいてるので先生は又お話しして下さいました。

「このみづくさんね、ふくろうと同じ様だけさ、頭の所にお耳の様なのが少し出てるでせう。ホラね。それでね、みづくつていふの。ふくろうは頭にこんなお耳の様なものなんかないのよ。頭が丸いのよ。

みづくさんは、こんなに可愛い、みんなが見てるのよくわからないでせうね。なんだか自分のお家さはちがふ所へ来た様だな、ギャ／＼して賑やかな所だな、なんて思つてるでせうね。今日はこんなにお日様が出てるて明るいからよくお目々が見えないの」

「おもしろいね」さつきから感心して見て居た男の子が、金網に顔をくつつける様にして見てゐます。

「みんながよく見られる様に明日までここに置きませうね」先生はブランコの方へ行つてしまひました。さつきの男の子が金網をドンドン叩いてみたり、「シッーシッー」さ追つてみたりしました。みづくさんは驚ろいて頭をうごかします。いつまでもく／＼見てゐました。

あしたの朝になりました、えみちちゃんやお友達は幼稚園に来て、第一にみづくの所に來てみました、先生も昨夜さうしたらうさ思つて來てみました、みづくさんは昨日と同じよう

にさまり木に止つて居りました。さぜうは井からさび出して井の水は氷になつてました。

よくみるさみづくの鼻の先が何かにひつかけたのか血が出てます。

「先生鼻の所に血が出るよ」早くも見つけてさわぎました。

「昨夜きつこ森の中だと思つて飛び廻つたら、お家がせまいのでさまり木にでもぶつかつたんでせうね。可愛想に、今日は先生が歸る時さばしてやりませうね」「おしいなあ！先生」みんながつまらなそうな顔をしています。

「先生みんな見てしまつたら、飛ばしておやりつて、お父ちゃんも言つたの」えみちやんがこう言つたので、さうく夕方飛ばしてやることにさまりました。その日の夕方町に電燈がつく頃、みづくさんをにがしてやりました。

二日も變つたお家に入れられて何だか元氣がない様にしてるたが喜んで裏の山の方へ飛んでいつてしまひました。今頃はきつこお家で楽しく遊んでるでせうね。

佳作 子供は風の子

荒井 志乃

「お姉さん、風の子つて言ふのは、誰の子なの。」

さ聞いたのは、今年八つになる、目のクッキリした、顔のボタボタした健ちやんさいふ子であります。

今、健ちやんから風の子つて言ふのは、誰の子だつて、さ聞かれたのは、健ちやんのお姉さんでした。お姉さんは、